編集後記

●3月に剣崎沖で釣り客が転落死するという事故がありましたが、なんとクリニックのとなりの歯科の先生でした。どうもライフベストはつけてなくてお酒を飲んでいたようですが他人事ではありません。自分はいつもライフベストを着用していますし最近は（そんなに）飲まないで釣りをしますが気をつけなくては。いつもあいていたとなりのシャッターが閉まったままなのはやはり寂しいものです。さて神皮はさらなる発展を目指し新しい委員長になります。今までのご協力に感謝するとともにこれからも神皮をよろしくお願いします。

（川口博史）

●先日、某有名ＩＴ関連経済人が、医療費抑制のためには遅れているＩＴ化を推し進めさえすれば将来バラ色、というような発言を確かな数字的根拠なしにしていました。確かにＩＴ化は大事ですが、医療は人対人のこと、物の生産や情報発信のように効率化だけでは語れません。“医療費抑制”という語り口はビジネス目線だし、自身の業界への利益誘導のようにも聞こえ腑に落ちませんでした。医療をよりよいものにするのに多様な考え方は必要ですが、我々現場の思いとは別の方向へ行ってしまいそうで心配なこの頃です。

（河原由恵）

●娘が誕生日にお友達からオジギソウの栽培セットをもらってきました。オジギソウは葉をなでるとすばやくお辞儀のような運動をします。ネットによれば古くはアレキサンダー大王も興味を持ち進化論のダーウィンも観察をしていたそうで、現在はお辞儀の仕組みについて次々と新しい発見がなされているとのこと。奥が深い……！　私も子どものころ父につきあってよく園芸店に行き、葉をなでて遊んでいたのでなつかしく、さっそく種をまきました。今は4株が20ｃｍくらいまで育ちました。ピンクの花が咲くのが楽しみです。サボテンすら枯らした過去を持つ私ですが、これを契機に次はハーブに挑戦中です。

（高橋さなみ）

●医院を開業して10年が経ち、内装の欠点や汚れが気になったので改装をしました。改装が終わった時点では問題はないと思っていたのですが診療を再開するとドアが狭くなっていて車椅子が通れなくなったり、ドアノブが変っているので患者さんがドアを開けづらくなったりしていました。家もそうですが、建築関係は使い始めてから欠点に気づくようです。

（山本　修）

●今年の冬は雪の日が多かったようですが、春になっても寒い日が続き日照時間も短く野菜の生育も悪くなり、値段も高騰しました。暑くなったかと思えば、寒くなって、天候不順のおかげで体調も崩しやすく、風邪をひいて長引いてしまった人も多かったようです。安定しない天候が続いてこのまま梅雨入りしそうですが、夏になったら、猛暑は勘弁してもらいたいですが、安定した天候に戻ってもらいたいものです。

（小野秀貴）

●開設準備委員会から27年にわたって日臨皮本部の役員を務めてこられた加藤友衞会長がご勇退された。ご自身の仕事以上に全国の皮膚科医のために時間を惜しまず活動された、皮膚科開業医の鑑だと思う。それにしても鳩山、小沢両氏の退陣のニュースには驚いた。今の日本は、政党を問わず、だれが舵取りをしても難しい状況なのだろう。ギリギリのニュースをここで紹介できるのは、そう、とっくに投稿の〆切が過ぎているためである。いつものことであるが……。

（浅井俊弥）

●患者からの電話の問い合わせで、ここ大林医院の場所は、「銀座通りの交差点の近くに清水甘納豆屋があるのでそこを入って３軒目です」と説明するのだが、その店がテレビで紹介されて大賑わい。甘納豆のほかに必ず皆「柿の種」を買ってゆく。普通のものより色が濃く、醤油を二度漬けして焼いているという。なるほど、ちょっと香ばしくて癖になる。ご賞味希望の方はご連絡ください。とまあ、改めてメディアの影響を実感、そして今度はお笑いアイドルがニキビのCMをやるそうで、また少しだけ忙しくなりそうですね。

（大林寛人）

神　皮〈第17号〉

2010年７月４日発行

発　行　神奈川県皮膚科医会

発行人　栗原誠一

〒254-0043　平塚市紅谷町14-24

電話　0463-21-3031

制　作　かまくら春秋社

■表紙のことば

「横浜市開港記念会館」横浜市中区（中嶋三郎）

父は船乗りでした。現役時代は、スケッチブックには外国や日本の各地の港を船から見た絵ばかり描かれていました。定年後は海だけでなく、山や街々の風景、花や人も描くようになりました。その中の一つが父のお気に入りの建物、横浜市開港記念会館のレンガ建築です。父が愛した広島県江田島の海軍兵学校のレンガ造りと通じるところがあったのでしょうか。昨年は横浜開港150周年に沸いた横浜でした。（馬場直子）